

コロナワクチン接種の「これまで」と「これから」

コロナワクチン接種の現状

村井：コロナとの戦いが1年4ヶ月を超える中、感染防止の切り札として期待されているのがワクチン接種です。今日は、河野担当大臣に、新型コロナワクチン接種について伺っていきます。公務ご多忙の中、お時間とって頂きありがとうございます。

河野：村井さんには、ワクチンの関係で本当にお世話になってるからね。自治体や健康保険組合などの様々な団体との調整等、見えないところで本当に汗をかいて頂きました。この場を借りて御礼申し上げます。

村井：こちらこそです。埼玉県・さいたま市のワクチン接種促進にも心を配って頂き、感謝申し上げます。河野大臣は、現在のワクチン接種の状況をどうみておられますか。

河野：当初は、ワクチンが国内に足りない状況が続きましたが、5月半ばから、ファイザー社のワクチンが、6月半ばから、モデルナ社のワクチンが数千万回単位で入ってきてからは、速度が上がり、現状の接種回数は1日100万回を超えてきています。

だって落ち込んだままなわけで、「ここでケチってどうする」との思いを、伝えさせてもらいました。

河野：諸外国の例をみても、ワクチン接種率が一定水準を超えると、感染者数がガクッと下がるので、ワクチン接種をとにかく早く進めて、一日でも早く経済社会活動を取り戻していかないとね。そのためにも、あとは、職域での接種も加速していきたいと思っています。

県の大規模接種会場開設と職域接種の推進の裏側

村井：そうですね。まずは、さいたま市などの基礎自治体が主導する、ファイザー製ワクチンを使っの、医療機関での個別接種や市主導の集団接種があって、次に、モデルナ製ワクチンを使っの、自衛隊や県主導の大規模接種がある。ここまでは、大分動き出してきているんですが、加えての職域接種ですね。

河野：そう。その意味でいうと、村井さんには全国に先駆けて、モデルナ社のワクチンを使った埼玉県主導の接種会場を北浦和に開設するのに尽力して

村井：確かに。当初は出遅れを指摘する声もありましたが、官民あげての取組が奏功してきていますね。政府は、希望者への接種を11月中には完了することを目指しており、数ヶ月前に比べると、接種完了は半年近く、前倒しになったと思います。

医療機関の個別接種促進 - 鍵は接種報酬の引上げ -

河野：そう。これは、ワクチン接種に関わっている多くの皆さん、また国をあげてのプロジェクトにご理解ご協力頂いている国民の皆さんのお力の賜物です。日本の底力を改めて感じるし、私からは感謝しかありません。

それと、話していて思い出したけど、今じゃ当たり前になっている、医療機関での個別接種。今や、非常に多くの医療機関で接種頂いており、ワクチン接種促進の原動力なんだけど、村井さ



もらいました。

村井：お話を頂いてから、大野県知事や地元の県議さんと相談しながら、スピーディーに北浦和に接種会場を創ることができました。こちらこそ感謝申し上げます。

河野：職域接種についても、村井さんに、企業の健保組合の団体である健康保険組合連合会（健保連）に掛け合っ、協力を取り付けてもらいました。

村井：健保連の皆さんとは、議員連盟を通じて平素より付き合いが深かったので貢献できてよかったです。ただ、職域接種は、大企業の方が早めに立ち上がってきているので、地域の中小企業に勤める方にも、地元の商工会議所などを通じて、職域接種を提供できればと思います。また、お勤め先で職域接種がない場合も相当程度あると思うので、その場合は、さいたま市主導の接種でしっかり対応させて頂くと。総力戦ですね。

河野：そう。職域接種が立ち上がって

ん2月の予算委員会で質問してくれたよね。年明けの段階では、大規模接種会場がメインって話だったところ、村井さんが「高齢者の方や持病をお持ちの方は、かかりつけ医や身近な医療機関で接種できた方が、安心だし、何かあった時の対応もスムーズになる」と提案してくれたよね。

村井：そうでしたね。この半年間、ワクチンを巡って様々なことがあり過ぎて、大分昔のここのように思えますね（笑）年明けは、まだ医療機関での接種を行うかどうか固まっていませんでしたもんね。あとは、接種報酬引き上げの話もありましたね。

河野：そうそう。ある日の朝、村井さんから電話があって、「このままじゃ、医療機関の個別接種が進みません。接種報酬を上げないと、1日100万回なんか絶対無理です。」ってね。

村井：電話したのは、直前に地元のお医者さん達を周って話を聞いていたら、

くると、その分、地域で接種できるキャパシティに余裕ができて、地域の人も早く接種ができるようになるので、様々な企業や団体が職域接種に協力して頂けるのは大変ありがたいことです。※職域接種については、多くの申し込みを頂き、6月28日現在、新規の申し込みを一旦停止しております。

当たり前の日常を取り戻すために

村井：様々な接種手段を提供しつつ接種率を迅速に高めていくということですね。ちなみに、そもそも打つ打たないは個人の自由ですもんね。

河野：はい。勿論、ワクチン接種は、個人の自由で国が強制するものではありません。接種を受ける方の同意なく、接種が行われることはありません。

村井：ワクチン接種には、副反応が一定の確率で発生することが不可避ですが、その点はどうお考えですか。

ワクチン接種に取り組むって言ってくれた医療機関が結構限定的で。しかもやってくれるところも、「患者さんが少ない空き時間でやればいいんですよね」と。よくよく医療機関の方の話を聞くと、通常通りの患者さんに対応しないといけない中、ワクチン接種も実施するのは、やはり手間もコストもかかる。そもそも、「ワクチンは大規模接種会場の方がメインで打つんでしょ」というお医者さんも多かった。これはお医者さん方の意識を変えないといけないし、ワクチン接種にかかる費用をしっかりと補填することで、医療機関に強いインセンティブを与えないといけないと思い、電話しました。

河野：私も、医療機関の個別接種をもっと加速しないといけないとは思ってたんだけど、地域の生の声を聞かせてもらって確信できました。

村井：ワクチン接種報酬については、様々な議論があって、財務省なんかは、これ以上の引き上げは、医療機関・関係者へのバラマキだとか言うんですけど、平時はそうだとしても、今はどれだけワクチン接種をスピーディーに行って、経済社会を通常の状態に戻せるかが勝負。また、そうしないと、税収

河野：接種後に接種部位の痛みや、発熱・頭痛などの全身反応が生じる可能性があります。ただし、これまでのところ安全性への重大な懸念は生じておらず、接種のメリットが、副反応のデメリットを上回っているため、接種をお勧めしています。なお、接種は、体調が悪くないときに受け、接種後はゆっくり過ごすようにしてください。

村井：もちろん、持病などの関係で、どうしてもワクチンを打つことができない方もおられます。そうした方が差別されない仕組み作りも課題です。

河野：そうですね。職場などで、ワクチンを打たないからといって差別的な取り扱いがなされないように気をつけて欲しいです。

村井：河野大臣、本日は大変ありがとうございました。海外では、一定の割合の人がワクチンを接種することで集団免疫が出来たと考えられて、マスクをしなくて良くなり、普通に家族や友達と会ったり、食事や旅行を楽しむことが出来ている国もあります。当たり前の日常を取り戻すために、今後も引き続き、全力でワクチン接種の円滑化に取り組んでまいります。